

インド政治動向

—— 5州の州議会選挙結果と統一下院選に向けた展開 ——

北村 順一

インド経済研究所
理事・主任研究員

統一下院選への前哨戦となる5州（デリー連邦直轄地、チャティスガル州、マディア・プラデシュ州、ラジャスタン州、ミゾラム州）の州議会選挙が実施された。今回はその結果と迫る下院選に向けた展開を読む。

1. 結果

2013年12月8日、連邦直轄地デリーを含む5州の州議会選挙が開票された。2014年前半に迫る下院国政総選挙へのモメンタムを形成する選挙でもある。結果は、現政権UPA（統一進歩連合）の主導政党の会議派は、部族州ミゾラムを除き、惨敗した（図表1）。現政権を担う会議派は、デリー連邦直轄地、ラジャスタン州では完膚なきまでの敗北を喫した。会議派の切り札と思われた「国家食糧保障法」の導入（9月10日公示）は選挙戦へのワイルドカードとはならず、「経済運営」と「汚職」——いずれも会議派に不利——に争点が収斂され、9月13日に首相候補にナレンドラ・モディ（現グジャラト州州首相）を指名したBJP（インド人民党）が、首相候補指名を現時点で避けた会議派を、モディ・パワーで圧倒した。デリーにおいては、「汚職」に争点を絞った新党AAP（庶民党）^{注1}が、3期15年続いた会議派政権の支持基盤を崩し、BJPと拮抗する第2党に躍進した。株式市場は、これらの結果を受け翌日9日急騰、SENSEX指数は2万1484を記録した。株式市場は、10月中旬世論調査でのBJP有利の結

果以降、モディ相場の様相を呈している。

注1：AAPは2012年、社会運動家ケジリワルにより結成。シンボルマークは箒（汚職一掃の意味）。

2. 統一下院選に向けた展開

州議会選挙の総括は次のとおりとなるだろう。

- ①切り札：会議派惨敗。BJP圧勝。会議派主導の国家食糧保障法は、切り札とならなかった。
- ②首相候補指名：BJPの首相候補はモディ（9月選出）。会議派は首相候補未選出。会議派総裁ソニア・ガンディーは“opportune time [最適なタイミング]で選出”とコメントしている。ネルー王朝

図表1 5州州議会選挙結果（12月8日開票）

	政党	前回2008年 選挙議席数	前回2008年 選挙議席数	増減
デリー連邦直轄地	BJP（インド人民党）	23	31	8
	Congress（会議派）	43	8	▲35
	AAP（庶民党）	0	28	28
	その他	4	3	▲1
	総議席数	70	70	0
チャティスガル州	BJP（インド人民党）	50	49	▲1
	Congress（会議派）	38	39	1
	その他	2	2	0
	総議席数	90	90	0
マディア・プラデシュ州	BJP（インド人民党）	143	165	22
	Congress（会議派）	71	58	▲13
	その他	16	7	▲9
	総議席数	230	230	0
ラジャスタン州	BJP（インド人民党）	78	162	84
	Congress（会議派）	96	21	▲75
	その他	25	16	▲9
	総議席数	199	199	0
ミゾラム州	BJP（インド人民党）	0	0	0
	Congress（会議派）	32	34	2
	その他	8	6	▲2
	総議席数	40	40	0

注：ラジャスタン州は候補者死亡により1地区欠員（正確には200議席）。
出所：インド選挙管理委員会資料に基づき筆者作成

図表 2 重要州概要（下院議席数に占める割合）

州	下院議席数	総議席に占める割合 (W/T)	州政治の構造
ウッタルプラデシュ	80	14.73%	地域政党 SP (社会主義党) と BSP (大衆社会党) の 2 大地域政党政治。現政権は SP。国政を左右する巨大州。人口規模は約 2 億人
マハラシュートラ	48	8.84%	会議派と NCP (民族主義会議派) との連立政権
アンドラプラデシュ	42	7.73%	会議派政権。テランガナ新州設置状況が課題
西ベンガル	42	7.73%	ママタ・バナジー率いる AITC (全印草の根会議派政権)
ビハール	40	7.37%	州の政権党 JD(U) は BJP (インド人民党) 主導の NDA (国民民主連合) を離脱 (2013 年 6 月)
タミールナドゥ	39	7.18%	地域政党 DMK (ドラヴィダ進歩連盟)、AIADMK (全印アンナ・ドラヴィダ進歩連盟) の 2 大地域政党政治。現政権は DMK
マディヤプラデシュ	29	5.34%	州議会選挙で BJP 圧勝 (2013 年 12 月)
カルナタカ	28	5.16%	州議会選挙で会議派圧勝 (2013 年 5 月)
グジャラト	26	4.79%	BJP 政権ナレンドラ・モディ州首相
ラジャスタン	25	4.60%	州議会選挙で BJP 圧勝 (2013 年 12 月)
オディシャ	21	3.87%	地域政党 BJD (ビジュ・ジャナタ・ダル) 政権
ケララ	20	3.68%	会議派主導の UDF (統一民主戦線) が政権を握る。CPI(M) (共産党マルクス主義派) 率いる左翼戦線 (LDF) との 2 大勢力政治
12州合計	440	81.03%	N.A
下院総議席数	543	100.00%	N.A

出所：インド選挙管理委員会および他資料に基づき筆者作成

の後継者、ラーフル・ガンディーを首相候補とするのは2019年以降との観測もある。このコミットメントの差がでた。

- ③ 争点軸の移動：主要争点軸が「経済運営」と「汚職」となり、この軸に基づき支持基盤の移動が発生した。「経済運営」の焦点は庶民の生活に直結するインフレである。インフレは高レベルで膠着している。「汚職」という争点軸に関しては、都市部デリーにて、「汚職」を単一争点に掲げるAAPが、会議派の支持基盤を崩しBJPに続く第2党へ躍進した。AAPは、下院選では、デリー以外の都市部以外、たとえばムンバイへの進出、さらにはモディのお膝元グジャラト州26議席への候補者擁立を検討中である。他方、会議派は、1年近く棚上げとなっていた汚職防止法案 (Lokpal bill) を開催中の冬期国会へ提出予定だ。争点軸「汚職」への対抗カードである。
- ④ 国民は選挙結果を歓迎した (株価の動き、外国人投資家の動きがそれを物語る)。

543議席の争奪戦だ。前掲5州の州議会選挙結果の相似形とならないことだけは確かである。全州の政権の相似形に近い。図表2はインドの重要州の概要である。12州で下院議席数の80%を超える。図表のとおり、BJPが今般制覇したマディヤプラデシュ、ラジャスタン、モディの地盤グジャラトを除き、地域政党が入り組んでいることがわかる。地域政党がキャスティングボードを握るのである。同盟政策である。間口が広いほうが同盟を形成できる。BJPはヒンドゥ・ナショナリズムを標榜する右派政党であり、世俗主義勢力を結集しにくい。これがBJPの最大の強みでもあり最大の弱点である。BJPは単独過半数をとることができるだろうか？ 今回は下院選終了後に同盟が形成されるとの見方が強い。BJPが議席数で第1党となっても、多数派の構成が可能とならない限り、政権は構成 (form the Government) できない。1996年下院統一選後の悪夢^{注2}がよぎる。BJPのリスクは、そこにある。

注2：シャルマ大統領は第1党BJPのバジパイを首班指名。バジパイは多数派工作に失敗し、BJPの16日天下となった。

*本連載は今月号にて終了します。

3. 下院選に向けた展開はどうなるのだろうか？

インドの下院選は28州、7つの連邦直轄地、合計